学年	高校1年	教科	国語科	科目	現代の国語	単位数	2
教科書名	高等学校現代の国語 (第一学習社)			副教材名	読解現代文必携 キーワードの卵 (尚文出版)		
コース・クラス	N進学クラス						

I. 目標

- 1 国語で適切に表現し、的確に理解する能力を養成し、伝え合う力を高めるとともに、確かな基礎学力を養う。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
- 3 必要な情報を探す方法を理解し、情報の妥当性を考える力をつける。

II. 授業のねらい

- 1 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深める。
- 2 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めること。
- 3 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めること。
- 4 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させること。
- 5 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けること。

III. 授業の進め方

- 1 文章内容の理解を主とし、発問形式による教授方法やグループ学習によって学習を進める。
- 2 図説等の副教材を適宜活用し、確認テストを実施する。
- 3 「文芸コンクール」その他校外のコンクールに向けた学習に随時取り組み込む。

IV. 学習上の留意点

- 1 教科書の新しい単元に入る際は、予習として意味調べや漢字の書き取り、作品の通読を行うこと。
- 2 授業中には、板書や必要な情報をノートに書くこと。
- 3 配られた資料は、ノートに貼るかファイリングをし、必ず保存管理すること。
- 4 毎時教科書、ノート、副教材を授業前に準備し、机の上に置いておくこと。
- 5 小テストを実施するため、事前に学習すること。

V. 定期試験

- 1学期 中間試験 : 『水の東西』、初見問題
1学期 期末試験 : 『羅生門』、初見問題
2学期 中間試験 : 『「本当の自分」幻想』、『鏡』、初見問題
2学期 期末試験 : 『現代の世論操作』、『砂に埋もれたル・コルビジエ』、初見問題
3学期 学年末 : 『不均等な時間』、『城の崎にて』、初見問題

VI. 評価の方法

- 1 定期試験・進研模試..授業内容を理解し、それを応用することができる。
- 2 小テスト..計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- 3 提出物..積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り込むことができる。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	『水の東西』 『羅生門』 初見対策	・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・進研模試	<ul style="list-style-type: none"> ・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。
	5			
	6			
	7			
二学期	9	『「本当の自分」幻想』 『鏡』 『現代の世論操作』 『砂に埋もれたル・コルビジエ』 初見対策	・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・進研模試	<ul style="list-style-type: none"> ・反論を示すことによって自分の主張の正しさを補強する推論の仕方を理解し、粘り強く論理の展開を把握しようとしている。 ・積極的に本文中に根拠を求め、筆者の主張に対する自分の考えを、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。 ・父との過去の会話を重層的に描いた構成を把握し、一冊の本にまつわる三人の人間の思いを読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。
	10			
	11			
	12			
三学期	1	『不均等な時間』内山節 『城の崎にて』志賀直哉 初見対策	・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・進研模試	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深めるなどして、自分の意見や考えを論述する。
	2			
	3			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。